

建設産業図書館東日本建設業保証株式会社

江口知秀

いのに、 北側に津田永忠の銅像が立っていた。どうやら、こ少し遡って岡南大橋へと向かう。すると、橋の東詰め 少し遡って岡南大橋へと向かう。すると、極うと思う。まずは旭川を渡らねばならず、 だろうか。 根拠がなく、 の於喜多であった」などと書いてあった。沖新田 の辺りで彼から完全に距離をとるのは難しいようだ。 たりの道路沿いにピンクの花が咲き誇っていた。桃 人柱については、 いて「みず 水忠から一度離れて、 それはともかく、 銅像に刻まれた碑文を読むと、 門をわたり右岸へと戻ってきた。ここで津 まるで事実だったような書きっぷりだ。 児島湖花回廊作戦とか書いてあるので、 から人柱になることを申し出たのが下女 ましてや下女などと全く想像に過ぎな 前々号でもふれたが、 更に進むと、 児島湖の締切堤防を見てみよ 締切堤防の手前あ 沖新田の人柱につ 人柱などは 河口から 0

か、

ずつで、歩道も車道以上の幅がある。 道路は歩車道が分離されており、 五五八片、 べると桁違いに長く、そして広い。堤防の長さは一 そして、 天端幅は三三

だもあるという。 締切堤防に到着。百間川の河口水門と比 車道は片側一車線 堤防上の

湖畔を花で囲もうとしているのかもしれない。

広い安全な道を、 湖面を眺めながら走っていくと

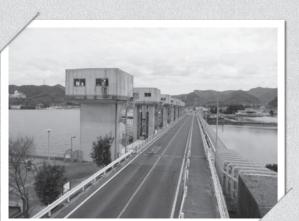
> ある様を詠まれたのだ。 切られて造られた児島湾が、淡水の湖に変わり ればしほならぬうみにかはり 詠まれた歌のようだ。「海原をせきし堤にたちて見ていた。歌碑のようだが、御製とある。昭和天皇の 樋門が見えてき、その手前に巨大な石碑が建てられ つつあり」。 堤で締め つつつ

再び河口

された。 となり、 まった。 三十二(一八九九)年に着工し、 十拓するという構想にちなんだ大規模な開発が 児島湾の干拓は、 明治時代になると児島湾の湾口を閉じて一挙に まずは民間事業として藤田組の請負で明治 五、○○○診以上もの新しい水田が生み出(一八九九)年に着工し、昭和に入ると国営 沖新田を最後に停滞期を迎える はじ

後には灌漑用水として使用できるようになった。 昭和三十一年から樋門の操作が開始され、約七ヵ月 進めるというもので、 開けて湖水を排出することにより、 満潮時は樋門を閉めて海水の浸入を防ぎ、干潮時は は締切堤防に設置された樋門の開閉によって行われ 源に充てるという日本初の試みがなされた。淡水化 児島湾を堤防で締め切って淡水化し、それを灌漑水 ておらず、 しかし、 これらの干拓地は特定の灌漑水源をもっ 用水が不足した。その解決を図るため、 事業は昭和二十五年に着手し 徐々に淡水化を

> のか明記されていない。 面締切りによる淡水湖」だと書かれているが、それ工事概要が刻まれており、それには「世界第二の海巨大な歌碑の足元にある長方形の小さな石碑には もそうだが、 誤解を残さないように、 足を止 深さなの めた人が読みやすく、 さきほどの津田永忠の銅像 か、それとも出来た順位な きちんとした事実を 分かり



児島湖の締切堤防 堤防の右側が児島湖

[交通] 百間川河口水門から児島湖の締切堤防まで 自転車で約30分